

令和2年6月18日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和2年度病害虫発生注意報第1号

今後多発生が予想される果樹カメムシ類の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 注意報の内容

病害虫名：果樹カメムシ類

(クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)

対象地域：県内全域

発生量：多

2 注意報発表の根拠

- 1) 5月第1半旬～6月第2半旬の果樹カメムシ類の予察灯の累積誘殺数は、クサギカメムシが39頭(平年値：19.0頭)で平年の2倍、チャバネアオカメムシが151頭(同：4.6頭)で33倍、ツヤアオカメムシが307頭(同：1.3頭)で236倍多い。
- 2) 県内の一部産地では、果実への被害がすでに確認されている。
- 3) 1か月の気象予報(令和2年6月11日付、新潟地方気象台発表)によると、向こう1か月の気温は平年に比べ高いと予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると推測される。

3 防除上の注意事項

- 1) 山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、十分注意する。
- 2) 地域の防除暦にしたがって、薬剤散布を実施する。
- 3) 収穫時期が近い場合は、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に注意する。

【参考資料】

果樹カメムシ類について

1 果樹カメムシ類とは

果樹カメムシ類とは、りんご、なし、もも、かき等、果樹の果実を吸汁加害するカメムシの総称です。

本県に発生する主な果樹カメムシは、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシの3種類（下図）です。



左からクサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ

2 果樹カメムシ類の生態と被害

果樹カメムシ類は、山林のスギ、ヒノキなどの球果を餌に繁殖し、果樹園に飛来します。昨年はスギの球果量が多く暖冬であったことから、山林での果樹カメムシ類の越冬量も多かったと推察されます。

これら山林で越冬したカメムシの成虫が果樹園に飛来し被害を及ぼすので、本年は、果樹園へのカメムシ類の飛来に注意が必要です。

被害果実の症状は、カメムシの吸汁により果実が落下したり、果実表面に凸凹が生じ奇形果（右図）となったり、吸汁部の果肉がスポンジ状になる症状が見られます。

